

KARTE

カルテ



朝起きると耳の聞こえが悪く、ストレスを感じます。午後から少しずつ改善されますが、血流が悪いと言われ、薬を飲んでいきます。どんな病気が考えられるのでしょうか。(73歳、女性)

難聴

音は空気の振動として、耳の穴を通して鼓膜に伝えられます。鼓膜が振動し耳小骨で増幅され、さらに奥にある内耳の蝸牛という器官が振動を電気信号に変えて脳に伝えます。

「耳の聞こえが悪い」との

起るケースもあれば、長い期間で生じるときもありま

振動による聞こえが低下している

鼓膜を介して聞こえる聴力が低下しているのか、振動による聞こえも低下しているのかで診断や治療法が異なります。

低い音の聞こえが低下している、低音障害型感音難聴やメニエール病の可能性がわかります。目まいを起すことで知られるメニエール病ですが、難聴だけ起きる型もあり、カルナクリン(一般名・カリジノゲナーゼ)など処方されている薬から推察すると、その可能性が高いのではないのでしょうか。

問題部位により異なる治療法

ことですが、一口に難聴と言っても原因はさまざまです。診断は、鼓膜や鼻粘膜の状態を確認し、複数の種類の聴力検査を組み合わせて行います。耳の機能だけでなく、耳と鼻をつなぐ耳管の機能に原因があることもあります。また聴力の変動が1日の中で

が低下しているときは、外耳や鼓膜から内耳への音の伝わり方に問題があり、外耳や中耳の病気や耳管機能の問題の可能性が考えられます。耳管は加齢に伴い機能低下する場合があります。1日の中で通り具合が変化することもあります。

難聴は原因が変わる場合もあり、検査で聴力変化を長期的に管理することが大切です。

す。変動に関して、検査を行う時間帯で違いがあるかという点も確認する方が良いでしょう。診断により治療法が異なります。主治医の先生と相談いただければと思います。(兵庫県医師会、法重元二 西宮市、ほうき耳鼻咽喉科クリニック院長)
◇第1、3、4日曜に掲載
します。